

特集

あれから2年

災害対策の「変えた」「変わった」

2011年3月11日の東日本大震災から、2年が経とうとしています。訪問看護ステーションも多く被災しました。

津波で事務所を流失したり、原発事故で避難を余儀なくされたり、これまで築いた事業の基盤を根こそぎ失うに等しい被害を受けたステーションもあります。

しかし、それでも「訪問看護」は着実に再興してきています。

あの悲しみと困難にもかかわらず、むしろ前より力強く。

「災害対策」の見直しへの取り組みもそのひとつです。

想定外の大災害となった東日本大震災では、

「備えていた災害対策は役に立たなかった」という声が多く聞かれました。では、東日本大震災の経験を経て、

今、災害対策はどう変わったのか？ どう変えてきたのか？

岩手・宮城・福島・茨城各県の訪問看護師たちに、

この2年間に振り返っていただきました。

写真…2012年12月26日宮城県名取市関上港近辺にて撮影